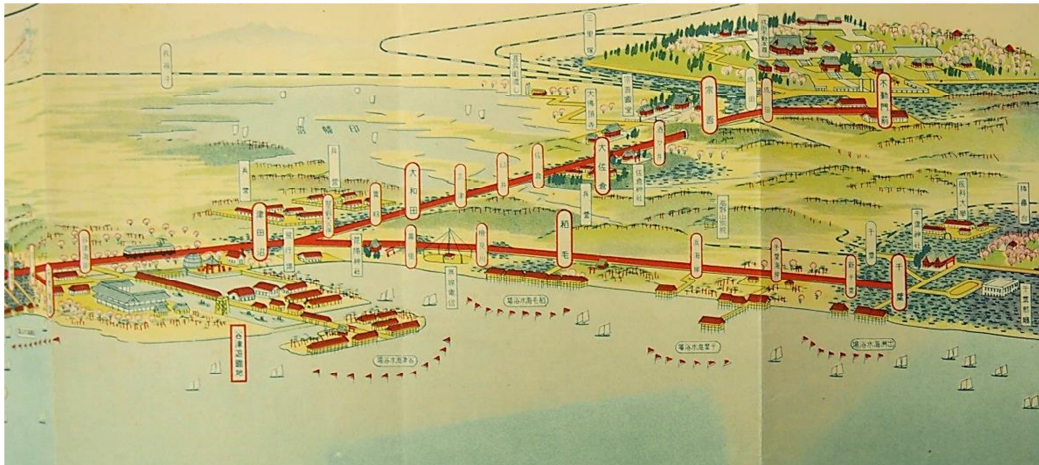


でかけよう!! 観光地・いなげ



- 津田沼
- 幕張
- 検見川
- 稲毛
- 浜海岸
- 千葉海岸
- 新千葉
- 千葉



左) 昭和13当時の京成千葉線の駅

上) 京成電鉄沿線名所案内図より拡大抜粋(昭和13年)

海気通信

10号

2016/7/1

発行

千葉市民ギャラリー・いなげ
 〒263-0034
 千葉市稲毛区稲毛1-8-35
 TEL: 043-248-8723
 FAX: 043-242-0729
<http://business4.plala.or.jp/g-inage/>

一、旅のはじまり

きれいなイラストで描かれている上の図は、昭和13年発行の京成電鉄の沿線の名所案内図です。海岸段丘を走る京成千葉線は、松林の長閑な風景を走り、車窓からは海が見え、窓をあけると波の音や潮の香りも感じられたことでしょうか。

駅名にも注目です。稲毛駅を下ると「浜海岸」「千葉海岸」と続き、海のイメージがかなり押し出されていますね。現在では「みどり台」「登戸」にそれぞれ改名されています。

二、さんさんく

京成稲毛駅に着いたら早速周辺散策スタート。明治21年に千葉県初の海水浴場となった稲毛海岸ですが、高台の松林や海沿いの納涼台(海の家)から東京湾を眺めることも楽しみの一つでした。富士山も見えるお祭りのポスターからも様子が伝わります。

また、当時は松林もれっきとした観光名所でした。海風で北の方角に傾いた磯馴れの松や砂が飛ばされ根っこがあらわになった根



千葉市観光祭りポスター(年代不明) 納涼台から松、打瀬舟、富士山を臨む

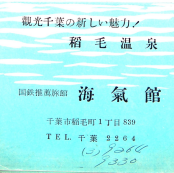


絵葉書(明治~大正) 上:稲毛海岸、下:根上松と磯馴松

上りの松は迫力満点。この風光明媚な稲毛の景観は、当時、絵葉書になり旅館や海の家でお土産として販売されていたようです。

三、ひとやすみ

散策で歩き疲れ、そろそろ旅館にチェックインしたい頃。稲毛は明治21年に海気療養所ができて以来、他にもいくつかの旅館が営業されてきました。昭和20年代半ばに発行された市内の旅館を紹介するパンフレット「皆様の旅館」では、稲毛の代表的な旅館として海気館・一二三館・清すみ旅館が掲載されています。



海気館パンフレット (昭和30年前後)



中でも海気館は海水を沸かした風呂なビュニークな設備があったことが伝えられてきました。が、今回は郷土博所蔵の貴重な実際の写真をご紹介します!

四、旅のおわり...

旅の締めくくりはやはりお土産ですね。昭和32年発行の「千葉市のすがた」や昭和36年発行の「千葉市産業・物産・観光」には左のような稲毛の海の幸を生かしたお土産が紹介されていました。

貝人形



アサリの貝殻は細工の材料にも。

中華麺



穏やかな千葉の海をイメージして「静海波」と名付けられた中華麺。

やき蛤



稲毛名産のアサリを使った佃煮は船型の入れ物が素敵。

貝煎餅



アサリのむき身をそのまま挟み込んで焼き上げたお煎餅。

焼海苔



稲毛といえば海苔の養殖。地元では黒い札びらと呼ばれてた。



磯の香り 焼き海苔を巻いた定番の煎餅。

今回の海気通信は千葉市立郷土博物館所蔵の資料を元に編集しました。ご協力ありがとうございました。